

オミクロン対応型ワクチン接種について

厚生労働省 健康局 予防接種担当参事官室

1. 基本的な考え方

- 毎年、年末年始に感染が流行していることを踏まえ、年内に全接種対象者が接種可能となる体制を整備すること。

2. 接種対象者について

- 初回接種を完了した12歳以上の者であって、最終の接種から5か月以上 **(※)** 経過した全ての住民を対象に実施する。

3. 接種の開始時期等について

(※) 接種間隔短縮について、10/19の薬食審で議論。認められれば、速やかに厚科審で議論。

- 令和4年9月20日より接種を順次開始。 **BA.4-5対応型ワクチンの接種は10月13日より開始する予定。**
- 9月半ば過ぎからは、まずは、現行の4回目接種の対象となっている者であって、当該接種を未実施であるものを対象に接種する。
- 4回目接種の一定の完了が見込まれた自治体においては、配送ワクチンの範囲内で、社会機能を維持するために必要な事業の従事者や年代別など、その他の初回接種が完了した者へ移行する。
- これら以外の初回接種を完了した者への接種は、引き続き、10月半ばを目途に準備を進める。
- 特例臨時接種の実施期間を令和4年度末（令和5年3月31日）まで延長することとする。

4. ワクチンの種類及び供給について

- 分科会では、オミクロン株と従来株に対応した2価ワクチンを使用することが妥当であるとされ、**亜系統（BA.1又はBA.4-5）の違いにかかわらず、従来ワクチンを上回る効果が期待されている。**
- **BA.4-5対応型の使用開始後も、BA.1対応型を廃棄することなく、接種可能なワクチンを使用して、速やかに接種を進めること。**
- 供給スケジュールの詳細については、**9/28事務連絡（ファイザー）、9/28事務連絡（モデルナ）**を参照すること。

5. 予算について

- 体制確保に必要な費用については、引き続き、国が全額を負担することとする。

6. 接種券の発送準備について

- まずは、3回目完了者であって次回の接種券が送付されていない者の接種券について、早急に発送すること。
- 従来ワクチンの4回目接種完了者については、10月末までに送付するよう努めること。
- その他の者へ改めて配布する場合は、一律新規配布、申請方式による配布など、自治体ごとの柔軟な対応を行って差し支えないこと。

7. 事務運用について

- 自治体向け手引きに沿って対応すること。

8. その他

- 各自治体においては、できるだけ長い期間で予約枠が提供できるよう努めること。**なお、BA.1対応型又はBA.4-5対応型の明示は不要。**
- 住民に対して、一時的に予約が混雑した場合であっても、令和4年中には全ての方が接種可能な体制を整備している旨、周知すること。

BA.1対応型、BA.4-5対応型の区別について

国のスタンス（自治体への周知状況）

（9/16自治体説明会）

- オミクロン株対応ワクチンは、株の種類（BA.1とBA.4-5）にかかわらず、従来型のワクチンを上回る効果があるとともに、今後の変異株に対しても有効である可能性が高い。そのため、**その時点で接種可能なワクチンを接種することが適当**。

（9/14事務連絡）

- **1つの会場で複数ワクチンを取り扱う可能性があることを前提**に、留意事項を周知。

（ワクチン配送）

- **ロット毎（会社別、種類別（BA.1対応型、BA.4-5対応型））**のV-SYS登録。

（コロナワクチンナビ（国が整備する国民向けサイト））

- **株の種類は明示せず、「ファイザー（2価）」と表示**。

（リーフレット）

- **いずれの種類**のワクチンでも**従来ワクチンを上回る効果が期待される**旨を周知（10/7リーフレット発出）。

【参考】9/14事務連絡（抜粋）

また、オミクロン株対応ワクチン接種が開始されると、**1つの接種会場で複数種類の新型コロナワクチンを取り扱うことも想定される**。その場合には、**従来ワクチンとオミクロン株対応ワクチンとを明確に区別して以下のような措置等を講じた上で、接種、管理、運用等について十分に注意し、間違い接種がないように留意すること**。

- ・ 複数種類の新型コロナワクチンの接種を混同しないよう、ワクチンごとに接種日時や接種を行う場所（例：部屋）を明確に分けること。
- ・ 同一の冷蔵庫・冷凍庫内において複数の新型コロナワクチンを保管する場合は、容器・管理を明確に分けること。
- ・ 新型コロナワクチンの管理については、複数人での確認を徹底するとともに、接種関連器具・物品を区分し、責任者・担当者を置くこと。
- ・ ワクチン接種記録システム（VRS）への誤登録が生じないように事務的な工夫を行うこと（例：①1つの会場に複数台のタブレットがある場合には、読み込み用のタブレットを従来の株用とオミクロン株対応用で分けて使用する、②1つの会場に複数台のタブレットがない場合には、読み込みの都度、プリセットを変更するのではなく、あらかじめ予診票を従来ワクチン用とオミクロン株対応ワクチン用に分けておき、プリセットの変更回数を極小化する、など）

BA.1対応型、BA.4-5対応型ワクチンの区別について（コロナワクチンナビ）

※ コロナワクチンナビ上は、単に「ファイザー（2価）」と表示

接種会場一覧



東京都 > 品川区

お住まいの市町村の接種会場に加え、「自衛隊東京大規模接種会場」でも接種を受けられます。

[続きを読む](#)

[自衛隊大規模接種会場 予約サイト案内](#)

接種するワクチンについて詳しく知りたい方は[ワクチンについて](#)をご覧ください。
どうすればワクチンを接種できるのかを詳しく知りたい方は[ワクチンを受けるには](#)をご覧ください。

予約可能な会場のみ表示
 一般受入可の会場のみ表示

施設名、住所、郵便番号
キーワードを入力

この条件で絞り込む

ワクチンメーカー
ファイザー
ファイザー(5-11歳)
ファイザー(2価)
モデルナ
モデルナ(2価)
アストラゼネカ
武田(ノババックス)

◇ 予約不要 ○ 予約可能 ▲ 若干空き有り — 予約準備中 ✕ 予約不可

深川北スポーツセンター
平野3-2-20

地図

一般向け

- ファイザー
- ファイザー(2価)
- モデルナ

+

開く

ワクチンについて

ワクチンの概要・効果、供給されるワクチン、接種状況などについての情報



新型コロナワクチンの特徴

新型コロナワクチンには、重症化を防いだり、発熱やせきなどの症状が出ること（発症）を防ぐ効果があります。接種を受けていただくことで、重症者や死亡者が減ることが期待されています。
一方で、接種後の副反応として、接種部位の痛み、頭痛・倦怠感、筋肉痛などが報告されているほか、ごくまれに、接種後のアナフィラキシー（急性のアレルギー）が報告されています。
新型コロナワクチンの薬事承認にあたって、有効性や安全性を、臨床試験や科学的知見に基づいて確認しています。

接種できるワクチン

ファイザー社（12歳以上用）
ワクチン名：コミナティ
ワクチンタイプ：mRNAワクチン
ワクチンについての詳細は[こちら](#)

モデルナ社
ワクチン名：スパイクバックス
ワクチンタイプ：mRNAワクチン
ワクチンについての詳細は[こちら](#)

アストラゼネカ社 ※2022年9月末供給終了
ワクチン名：バキセゼリア
ワクチンタイプ：ウイルスベクターワクチン
ワクチンについての詳細は[こちら](#)

ファイザー社（5～11歳用）
ワクチン名：コミナティ 5～11歳用
ワクチンタイプ：mRNAワクチン
ワクチンについての詳細は[こちら](#)

武田社（ノババックス）
ワクチン名：ヌバクソビッド
ワクチンタイプ：組換えタンパクワクチン
ワクチンについての詳細は[こちら](#)

ファイザー社（2価）
ワクチン名：コミナティRTU
ワクチンタイプ：mRNAワクチン
ワクチンについての詳細は[こちら](#)

モデルナ社（2価）
ワクチン名：スパイクバックス
ワクチンタイプ：mRNAワクチン
ワクチンについての詳細は[こちら](#)

ファイザー社（6ヶ月～4歳用）
ワクチン名：コミナティ6ヶ月～4歳用
ワクチンタイプ：mRNAワクチン
ワクチンについての詳細は[こちら](#)

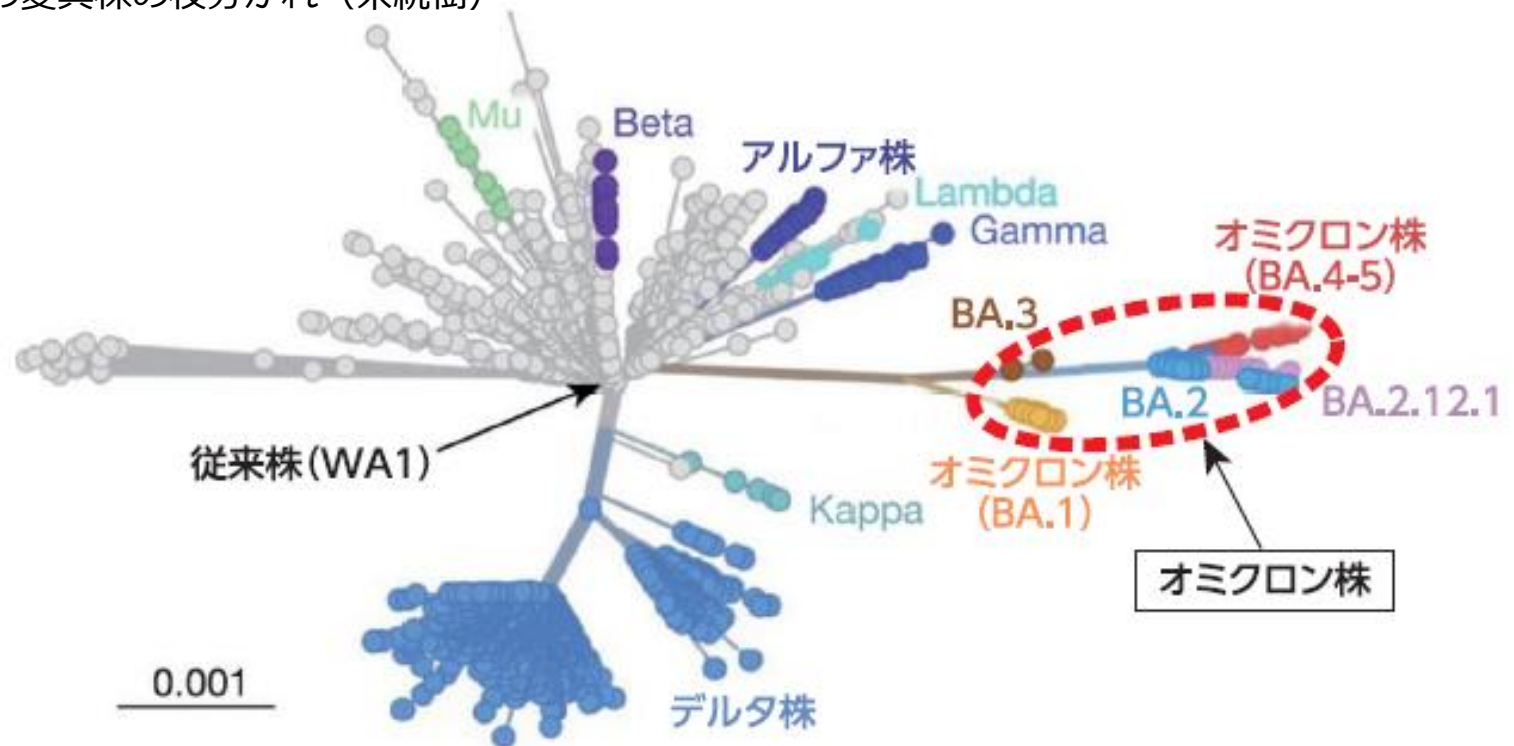
オミクロン株の亜系統とワクチンの有効性について

○BA.1、BA.4-5はいずれもオミクロン株の種類（亜系統）。【下図参照】

○現時点の知見を踏まえた専門家（「新型コロナワクチンの製造株に関する検討会」）による検討結果は以下のとおり。

- 免疫を刺激する性質を比較した場合、従来株と現在流行しているオミクロン株との差と比較すると、オミクロン株の中での種類（BA.1とBA.4-5）の差は大きくないことが示唆。
- オミクロン株対応ワクチンは、オミクロン株の種類（BA.1とBA.4-5）に関わらず、オミクロン株成分を含むことで、現在の流行状況では従来型ワクチンを上回る効果があることが期待
- オミクロン株と従来株の2種類の成分が含まれることで、今後の変異株に対しても有効である可能性がより高いことが期待

新型コロナウイルスの変異株の枝分かれ（系統樹）







(※) 出典をもとに改編

出典 Wang, Q., Guo, Y., Iketani, S. et al. Antibody evasion by SARS-CoV-2 Omicron subvariants BA.2.12.1, BA.4 and BA.5. Nature 608, 603-608(2022)





2022年秋以降の新型コロナワクチン追加接種及びオミクロン株対応ワクチンの接種に係る諸外国の状況

オミクロン株対応ワクチンを使用した2022年秋以降の追加接種方針が各国から発表されている。

国・地域	発出機関	2022年秋以降の追加接種予定対象者	2022年秋以降の追加接種に関する方針 (接種間隔、使用ワクチン等)
 米国	CDC/FDA	<ul style="list-style-type: none"> 12歳以上の者に対する追加接種を推奨。 (CDC、2022/9/1) 	<ul style="list-style-type: none"> オミクロン株対応ワクチン（BA.4/5対応型）の使用を推奨。 (CDC、2022/9/1) 前回接種から少なくとも2か月の間隔を空けて接種が可能。 (FDA、2022/8/31)
 英国	JCVI	<ul style="list-style-type: none"> 追加接種が提供されるべき：高齢者向け介護の入居者とスタッフ、第一線の医療・社会福祉従事者、50歳以上の者、5-49歳のハイリスク者、免疫抑制者と家庭内接触のある5-49歳の者、16-49歳の介護者。（2022/9/3） 	<ul style="list-style-type: none"> 12歳以上の対象者に対してはオミクロン株対応ワクチン（BA.1対応型）または従来型ワクチンが使用されるべき。5-11歳の対象者に対しては従来型ワクチンが使用されるべき。 前回接種から少なくとも3か月の間隔を空けて接種されるべき。（2022/9/3）
 カナダ	NACI	<ul style="list-style-type: none"> 追加接種が提供されるべき：65歳以上の高齢者、長期療養施設入所者やその他施設に居住する高齢者、12歳以上で基礎疾患を有する者、先住民集落居住者又は出身者、特定の人種や社会から疎外されたコミュニティに属する者、12歳以上の共同生活者。 追加接種し得る：12-64歳の者。 (2022/6/29) 	<ul style="list-style-type: none"> 18歳以上の対象者に対してオミクロン株対応ワクチン（BA.1対応型）が提供されるべき。オミクロン株対応ワクチンが入手できない場合、従来型ワクチンが提供されるべき。中等度から高度の免疫不全、または重症化リスクの高い12-17歳の人に対してオミクロン株対応ワクチンを提供し得る。 前回の新型コロナワクチン接種から6か月以上の間隔を空けて接種し得る。疫学的状況や実施の容易さに応じて接種間隔は最短3か月まで短縮し得る。（2022/9/1）
 フランス	HAS	<ul style="list-style-type: none"> 追加接種を推奨：60歳以上の者、免疫不全の者、重症化リスクのある者、妊娠中の者、ハイリスク児、医療・社会福祉従事者を含む免疫不全者又は弱者の近接者。 	<ul style="list-style-type: none"> オミクロン株対応ワクチン（BA.1対応型又はBA.4/5対応型）を従来型ワクチンよりも優先して接種できる。 推奨される最短接種間隔は6か月。但し、80歳以上の高齢者、療養施設入居者、免疫不全の者については3か月。 (2022/9/20)

2022年秋以降の新型コロナワクチン追加接種及びオミクロン株対応ワクチンの接種に係る諸外国の状況

オミクロン株対応ワクチンを使用した2022年秋以降の追加接種方針が各国から発表されている。

国・地域	発出機関	2022年秋以降の追加接種予定対象者	2022年秋以降の追加接種に関する方針 (接種間隔、使用ワクチン等)
 ドイツ	STIKO	(2022年秋以降の追加接種について発表なし)	(2022/9/20の声明で、追加接種について以下の推奨が発出されている。 <ul style="list-style-type: none"> 12歳以上の者に対する追加接種としてオミクロン株対応ワクチン (BA.1対応型又はBA.4/5対応型) を使用することが好ましい。 追加接種は前回接種から6か月の間隔を空けて接種される。)
 イスラエル	保健省	<ul style="list-style-type: none"> 追加接種を推奨：65歳以上の者、医療従事者、介護施設の入居者及び介護者、基礎疾患を有する者、免疫抑制剤服用者、受刑者及び看守、学校・保育園の先生、妊娠中の者。 追加接種し得る：12歳以上の全ての者。 	<ul style="list-style-type: none"> オミクロン株対応ワクチン (BA.4/5対応型) を使用する。 前回接種から少なくとも3か月の間隔を空けて接種される。(2022/9/20)
 国際連合	WHO	(未発表)	(2022/6/17の声明で、現在利用可能なデータは、ワクチン組成にオミクロン株を含めることが有益である可能性が高いことを示していると表明。) (2022/5/17の声明で、冬期がある国々では、初回シリーズの完了率やハイリスクグループへの追加接種率を向上させる必要があると表明。)
 EU	EMA/ ECDC	(2022/9/6の声明で、オミクロン株対応ワクチンの追加接種の対象者に関して以下の推奨が発出されている。 <ul style="list-style-type: none"> 追加接種が優先的に実施されるべき <ul style="list-style-type: none"> 重症化リスクの高い者：高齢者、免疫不全の者、基礎疾患を有する12歳以上のハイリスク者、妊婦。 長期介護施設の入居者及び職員。 追加接種が検討されるべき：医療従事者。) 	<ul style="list-style-type: none"> 使用するワクチンの種類よりも適切なタイミングでの接種が重要。オミクロン株対応ワクチンがまだ利用できない場合、従来型ワクチンの使用を検討するべき。(2022/9/6) (2022/9/12にオミクロン株対応ワクチン (BA.1対応型及びBA.4/5対応型) が承認されている。前回接種から最短3か月の間隔を空けて追加接種し得る。)